



# 親子でなにわ新発見!

おとなと子どもがともに楽しめる講座やイベント、施設を体験レポートします。

今回ご紹介するのは「科学館」です。

## 春のおでかけは決まりです!...の巻

大阪の街はこの春も新しいニュースでいっぱいです。電車路線も増えて、お出かけ気分も上昇中! うっかりしていると、楽しいところを見逃してしまうかもしれません。今回はそんなファミリーにおすすめのスポットです。

今回おじゃましたのは、昨年リニューアルしたという科学館。どこがどんなふうになったのか期待しながら、まずはエレベーターで4階へ。このフロアは『宇宙』に関する展示が中心。一番目を引くのは惑星の模型です。「この中で一番大きな惑星は何だ?」など家族で問題を出し合ってみても楽しそうです。ここから各階への移動はエスカレーターで。エスカレーターは長くて迫力があるので、乗っていると次のフロアへの期待度も増していきます。3階は今回リニューアルして『化学』をテーマにした実物資料の展示が中心になりました。一番目に入るのは水晶です。こんな大きく美しいものが存在することに自然の力を実感します。「金」のコーナーには大判、小判がありますが、本物なので、歴史の学習もできそうです。「におい」を体感できるコーナーではおいしそうなにおいがあり、おなかですいてくるかもしれません。サイエンスショーもこのフロアです。この日のテーマは『重さ』。ボーリングの球が水に浮かんだり、マジックもあります。これも、ちゃんと科学の学習になっているところが科学館の最大のおすすめポイントです。3ヵ月ごとにテーマが変わるので、興味のあるテーマをチェックしてください。2階は『おやこで科学』をテーマにしています。小さな子どもも楽しみながら科学に触れられるようにリニューアルされました。1階は『電気』をテーマにしています。1、2階は小学校低学年でも理解できる内容です。体を動かしながら科学を知るとというのが楽しいです。「これは何だ?」というものがあつたら青いベストをきたサイエンスガイドさんに質問してみよう。ていねいに説明してもらえます。このガイドさんが行う『プチサイエンスショー』もあります。

そして、科学館ではプラネタリウムも忘れてはいけません。今年は「世界天文年」です。専門家による「おすすめプラネタリウム」にもランクインしています。すぐに満員になってしまうので入館したらまずチケットを購入することをおすすめします(休日は朝一番が比較的チケットが手に入りやすいです)。

科学館は楽しみながら学習できる大阪市内の施設の中でも代表的なところ。近くには新しくできた商業施設などもあります。足をのばしてみると楽しい発見がありそうです。どの方面へ行くにもアクセスがよいところなので春のおでかけにどうでしょうか。

(写真・文 梅木智子)



3F 大きな水晶!



2F 『おやこで科学』



1F 『プチサイエンスショー』

B1 プラネタリウムホール



### 科学館 <http://www.sci-museum.jp>

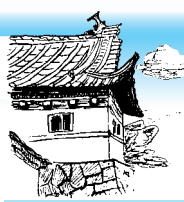
場所 〒530-0005 北区中之島4-2-1 電話 6444-5656 FAX 6444-5657

開館 9:30 ~ 16:45(観覧券の販売は16:00まで)

休館 月曜(祝日の場合は開館)、祝日の翌日(土・日・祝日の場合は開館)、年末年始、臨時休館日

費用 展示場(サイエンスショー含む):大人400円  
高大生300円 中学生以下無料  
プラネタリウム/全天周映像:大人各600円  
高大生各450円 中学生以下300円  
障害者手帳持参者、市内在住の65歳以上の入(要証明)は無料

交通 地下鉄「肥後橋」、JR「福島」「新福島」、  
阪神「福島」、京阪「渡辺橋」「中之島」、  
市バス「田養橋」



## おおさか歴史探訪 ⑭

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

### 天王寺公園の近代化遺産 - 慶沢園と市立美術館 -



天王寺公園の中にある純日本風の庭園であるけいたくえん慶沢園と、現在は市立美術館が建っている場所は、もとは住友家の本邸(茶白山邸)があったところです。慶沢園については以前にご紹介しました(2008年5月号)が、中島を浮かべた大池を中心に三方に築山をつかった林泉式回遊庭園で、明治41年に工事をはじめ、大正7年に完成しました。

大正14年に住友家は神戸に本邸を移しますが、その後、敷地は大阪市に寄贈され、建物が建てたところで市立美術館がつけられました。昭和8年に完成した建物は、正面に堂々とした切妻屋根の玄関を設け、屋根は瓦葺です。玄関の両脇にも同じように瓦葺の庇を取り付けアクセントとしています。玄関庇上部の装飾にも、東洋風の趣味が活かされています。鉄筋コンクリート造の近代建築に、和風のデザインを調和させた数少ない例といえます。

『新古今和歌集』の編者として著名な歌人藤原家隆は、かつてこの地の北側に庵を建て、夕日をながめて西方の極楽浄土を祈ったといわれます。天王寺公園を巡りながらこの地の歴史におもいをはせ、夕方には美術館の玄関前に立ち、西に沈む夕日をながめて家隆の気分にひたるといっても、一興ですね。